

報告事項ク

国史跡青谷上寺地遺跡整備計画について

国史跡青谷上寺地遺跡整備計画について、別紙のとおり報告します。

平成30年10月31日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

# 国史跡青谷上寺地遺跡整備計画について

平成30年10月31日  
文化財課

国史跡青谷上寺地遺跡の整備については、平成28年度から平成30年度までの計画で「整備基本計画（詳細化）及び整備基本設計」を「とっとり弥生の王国調査整備活用委員会 整備活用部会」（座長 深澤 芳樹）での検討に基づき作成しています。このたび、第6回整備活用部会を下記のとおり開催して史跡整備の全体像が固まったので報告します。

## 記

### 1 開催日時・開催場所

平成30年10月11日（木）午後4時から午後4時40分まで 県立米子産業体育館 中会議室1

※整備活用部会に先立ち、同日午後2時から「とっとり弥生の王国調査整備活用委員会」の全体会を開催し、委員長に和田晴吾兵庫県立考古博物館長を選出した。

### 2 概要

史跡公園の入口であるエントランスエリア（展示施設・ガイダンス施設、駐車場）の配置については、第5回整備活用部会で以下の2案に絞られていたが、それぞれの案で景観と施設建物との一体感が実現できるかどうか等が課題となっていた。

#### ○案1-1（エントランス機能集約型）

展示施設・ガイダンス施設を山陰道高架の南側に集約して配置

#### ○案1-2（エントランス機能分散型）

ガイダンス施設を山陰道高架の南側、展示施設を山陰道高架の北側に分離して配置

今回の部会開催に先立ち、各委員にはワーキング等で現地を確認いただき、施設を建設した場合の景観をイメージしていただいた。

部会では現地視察の所見を踏まえたうえで、これらの2案を検討し、全員一致で案1-1（エントランス機能集約型）を部会の意見とした。

### 3 整備活用部会の意見

#### 【案1-1（エントランス機能集約型）の場合】

- ・エントランス予定地は景観もよく、湿地を復元する山陰道高架南側の景観とも一体感があるうえに広い面積を確保できることから、施設の建設地として望ましい。
- ・駐車場（山陰道高架北側）からエントランス（山陰道高架南側）へのアプローチの工夫が今後の重要な検討課題となる。

#### 【案1-2（エントランス機能分散型）の場合】

- ・展示施設建設予定の土地が狭く制約が大きいうえに、鳥取市のハザードマップによると水害の際に浸水被害を受けやすいことが予想される。また、工場が視界に入る等、景観と建物との一体感を阻害する要素がある。

### 4 今後の予定

平成30年度	基本計画の最終調整、基本設計 12月（予定）で基本計画の全体について整備活用部会で検討。
平成31年度以降	工区を分けて実施設計・工事の優先順位を考慮しながら段階的に実施し、完成した工区から随時公開



